

インマヌエル中目黒キリスト教会 聖日礼拝・2008.4.6.

メッセージ

「自分の『道具性』
を忘れた斧」

イザヤ書10章15-23節

竿代照夫牧師



聖書朗読

旧約聖書

イザヤ書10章15-23節

15 斧は、それを使って切る人に向かって高ぶることができようか。
のこぎりは、それをひく人に向かっておごることができようか。
それは棒が、それを振り上げる人を動かし、
杖が、木でない人を持ち上げる
ようなものではないか。

16 それゆえ、万軍の主、主は、
その最もがんじょうな者たちの
うちにやつれを送り、
その栄光のもとで、
火が燃えるように、
それを燃やしてしまおう。

17 イスラエルの光は火となり、
その聖なる方は炎となる。
燃え上がって、そのいばらと
おどろを一日のうちになめ尽くす。

18 主はその美しい林も、果樹園も、
また、たましいも、からだも
滅ぼし尽くす。

それは病人がやせ衰えるように
なる。

19 その林の木の残りは数えるほど
になり、
子どもでもそれらを書き留め
られる。

20 その日になると、
イスラエルの残りの者、
ヤコブの家のがれた者は、
もう再び、自分を打つ者に
たよらず、
イスラエルの聖なる方、主に、
まことをもって、たよる。

21 残りの者、ヤコブの残りの者は、
力ある神に立ち返る。

22 たとい、あなたの民イスラエル
が海辺の砂のようであっても、
その中の残りの者だけが立ち返る。
壊滅は定められており、
義があふれようとしている。

23 すでに定められた全滅を、
万軍の神、主が、
全世界のただ中で行なおうとして
おられるからだ。

説教

「自分の『道具性』を忘れた斧」

イザヤ書**10章15-23節**

竿代照夫牧師

主テキスト：

「斧は、それを使って切る人に向
かって高ぶることができようか。の
こぎりは、それをひく人に向かって
おごることができようか。」

(イザヤ**10:15**)

A. 神の斧であるアッシリヤ

1. 神は歴史を動かす道具として、
ある民族を用いなさる

(5—6節)

2. アッシリヤはイスラエルへの 審判の道具として用いられた

- テグラテピセル、
アラムを滅ぼす(**BC732年**)。
- サルゴン、北イスラエルを
滅ぼす(**721**)
- セナケリブ王、ユダ王国に侵略
し、エルサレムを包囲する(**701**)。

B. 自分の道具性を忘れた
アッシリヤ

1. 限度を超えた残虐さ (7節)
2. 自分の力の過信(13節)
3. 全能者を下に見る傲慢(15節)
＜絵図①参照＞



絵図①

4. 私達はどうか？

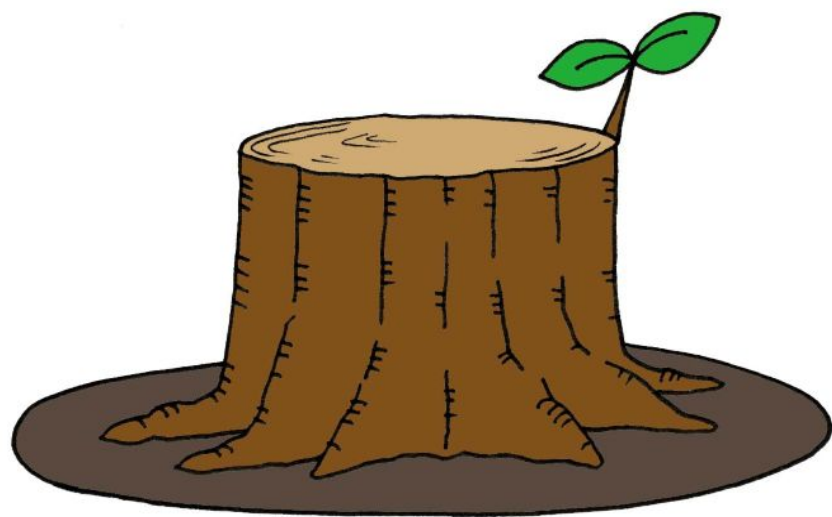
- ・ 私達の「器」性
(エレミヤ**18:6**、イザヤ**43:21**、
2コリント**4:7**)
- ・ 器性を忘れる危険(士師**16:20**)
- ・ 器性を否定する危険
(2コリント**10:13**)

C. 滅ぼされるアッシリヤ

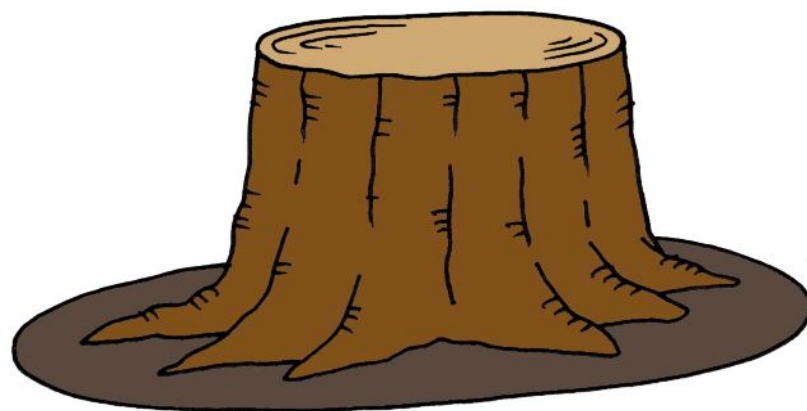
1. 滅亡の預言(16節)

2. 預言の成就（26節）

- **701年**：セナケリブ王の侵攻作戦
の大失敗
- **681年**：セナケリブ王の暗殺
- **628年**：スクテヤ人の侵入
- **625年**：新興バビロンに敗北
- **612年**：バビロンによって
首都ニネベが滅亡<絵図②参照>



イスラエル



アッシリヤ

絵図②

3. イスラエルには残されるもの
がある

(20—21節)

終わりに

1. 私達の「器性」を覚えよう

2. 神の御手に落ち込もう

- ・ 頑固な器ではなく、
- ・ 傲慢な器でもなく、
- ・ 柔軟で協力的な器となろう